第４回高知県海洋深層水研究所のあり方検討会　議事要旨

○開 催 日 時：令和６年８月 30 日（金）午後１時から２時まで
○開 催 場 所：オンライン
○　出　席　者：出席者名簿のとおり
○　　議　　題：
　　（１）基本構想策定に向けた委託調査内容の検討
　　（２）その他

●議事要旨

議題（１）の前段として、あり方検討会の全体の流れ、第４回の検討会の論点の整理について、事務局から資料１、２を使ってそれぞれ説明。

その後、資料４を使って（各委員には資料３を参照していただきながら）、議題（１）について協議を行い、各委員から下記の提案・提唱等があった。

●質疑、意見交換

＜現状調査について＞

石塚委員

現状調査の対象として、現在の研究所・施設のメンテナンスにどれだけの費用がかかっているかも調べると良いのではないか。費用にあてた財源、その推移も分かる形でまとめると良いと考える。

廣瀬委員

建物の老朽化を調べるうえでは、既存の建物があとどのくらい耐久性があるか、という試算も必要ではないか。

大塚委員長

BCP の観点から、過去（例えば 2018 年）の台風被害などを例に、これまでの災害規模とその時の被害情報を調べ、レベル分けして整理する調査もしてほしい。

竹内委員

参考として、アクアファームの施設の老朽化状態、管理運営体制なども調査すると良いのではないか。

＜個別調査について＞

大塚委員長

（ハード面⇒）調査対象に富山県滑川市の施設が入っているが、正月の地震でもかなりの被害が出ている。BCP の観点から、災害対応の実例研究として、詳細に調査を実施することが大切。

大塚委員長
（ソフト面⇒）それぞれの取水地の研究施設で得意・不得意分野も調べられると良い。その中でいかに室戸の特徴を出していけるか、という観点から調査を進められると良いと考える。

石塚委員
研究資金の調達方法にも関連して、全国取水地の中で研究機能を持っている所、そうでない所とある。高知県が取水機能と研究機能を両方有していることを強みとして、例えば、研究機能がない他県の事業者の研究も受託するなど、全国的な研究機能を担う流れができれば、ヒトやモノ（大学、機関）も集まってくると考える。
その点をふまえ、調査項目として他県の研究ニーズにどのようなものがあるかを調べられると良い。

（大塚委員長⇒事務局　石塚委員の意見に対して、事務局は何か回答はあるか）

事務局（筒井）
他県の研究ニーズを調査することは、本県海洋深層水研究所にも非常に有用だと考える。
例えば、取水施設に研究所がない企業も実は自社商品の研究をしたいといったニーズはあるかもしれないため、そういった研究を受けていくという視点での助言と捉え、委託先候補にもその旨を相談したい。

大塚委員長
取水施設に研究所が併設されていなくても、他所から水をもらってきて研究している大学の例などもあるので、それらをふまえてニーズを調べられると良いと考える。

廣瀬委員
研究所がある県を調査対象としているが、研究所があることのメリットだけでなくデメリットも調べることで、研究所の意義が際立つと感じるので、そういった視点も必要ではないか。

（大塚委員長⇒事務局　研究所を持っていない所も研究対象とする想定はあるか）

事務局（筒井）
現時点では、研究所のある県を調査対象と想定していたが、お話を聞いて研究所がない所を調べることも検討したいと考えている。

廣瀬委員
研究所がない所は、なぜ（研究所）を持たないのか、を調べられると良いと考える。

＜分析・検討について＞

大塚委員長

コスト面での分析や比較検討だけでなく、大きな視野で（取水・研究にかかる）Co2 排出量などのエネルギー消費が与える環境面の負荷も比較検討してマトリックスを作るようなまとめ方ができると良いと感じる。

山崎委員

民間の企業が研究をしたり、養殖を行っている施設を残していくといった観点での検討は、この調査の中に入ってくるか。今回のあり方検討会の対象とならないかもしれないが、必要な機能だと考える。

事務局（西山）

水産の施設のことも含めてのお話と捉えるが、やはり今までの話にも出た民間需要がどれぐらいあるかという点で、オープンラボという機能は検討に値すると考えている。

石塚委員

研究所の必要性を改めて認識するためにも、深層水産業に関わる企業が研究所の機能をどう捉えているか、いまいちど海洋深層水企業クラブのニーズや期待感もお聞きできると良いのではないか。

オブザーバー　大西所長

建物の概算費用の検討に関して、単純な建設コストだけでなく、運営にかかるコストも含めた比較を行って、どういった施設にしていくかを考えていけると良い。

廣瀬委員

調査対象を深層水研究だけに特化するのではなく、深層水を扱った事業やその波及効果といった拡がりも含めて、関連事業を含めた全体地図があると分かりやすい。それを調査対象としても良いのではと感じる。

竹中委員（※当日欠席であったため後日（9/4）聞き取り）

まず、海洋深層水企業クラブとしては海洋深層水の持続的な安定供給が第一。

（研究所のあり方について）

今後、海洋深層水を利活用する事業者に対して、海洋深層水について聞きたい（学びたい）といった場合の窓口として、海洋深層水研究所があるといいと思う。「深層水を学びたいなら高知へ行け」と言われるくらいになれば素晴らしいと思う。

（石塚委員の意見（企業クラブのニーズ）を受けて）

研究所に対する企業クラブのニーズや、期待することについて、企業クラブ内で、アンケートを取ってみてもよいと感じた。

このアンケートを通じて、企業の意見を県に伝えることができるということを会員企業にも企業クラブ加入のメリットと捉えてもらえるという点でも、意味があると思う。
今までは、取水機能を担っているアクアファーム（室戸市）との接点が大半を占めるが、もっと研究所との接点を作ることも必要なことだと感じているし、今後、コンサルの調査・分析に必要な参考資料としても使えると思う。